

## くまびょう

112号

NEWS

くまびょう  
NEWS2006年  
10月1日

[発行所]

 国立病院機構熊本医療センター  
 〒860-0008  
 熊本市二の丸1番5号  
 TEL (096) 353-6501代  
 FAX (096) 325-2519

## 平成18年度 第1回(通算第21回)開放型病院連絡会開催される


 福田稗運宮協議会委員長  
 のご挨拶

平成18年度第1回開放型病院連絡会は、院外よりこれまで最多の170名のご参加を頂き、9月11日に、くまもと県民交流館（鶴屋東館）パレオホールにて開催されました。開始に当たり、宮崎院長がご参加の皆様にお礼を述べ、オーダーリングシステムの導入、FAX

紹介患者様の時間予約制の開始、クリティカルパスを中心とした電子カルテへの移行計画、末梢血管障害に対する血管新生療法の高高度先進医療承認、内視鏡脊椎手術・高圧酸素療法開始、大型救急車の購入予定など病院の現状について報告致しました。続いて、開放型病院運営協議会委員長の熊本市医師会長福田稗先生よりご挨拶を頂きました。福田先生は、患者は高度先進医療できめ細やかな医療サービスに加えてアクセスの良さ、安い医療費（コスト）を求めているが、医療財源は次々に削減されており、医療界の状況はますます厳しくなっている。この厳しい状況の時こそ病診連携が不可欠であり、病診連携を通じて医療機関の間の、また医療機関と患者との信頼関係を築くことが重要であると強調されました。

全体会議は熊本市医師会理事の田中英一先生と池井が進行を担当し、症例紹介として消化器科の押方医師が「早期胃がんに対する内視鏡的粘膜下層剥離術」を、ついで外科の吉田医師が「胃がんに対する低侵襲手術；腹腔鏡下幽門側胃切除術」を呈示しました。引き続き「病診・病々連携のあり方」と言うテーマでパネルディスカッションを行い、4名の先生にご発言頂きました。山下昌洋先生（内科）は在宅療養支援診療所の現状を、清田真由美先生（内科）は検査データ等を含めた幅広い情報の提供と、紹介元以外への転院に際しての紹介元への配慮を、牛島英隆先生（産婦人科）は患者様の

心のケアへの配慮、NICUの必要性などについて、竹下憲治先生（歯科）は待ち時間、IT、歯科臨床研修受け入れ等についてご意見を頂きました。これらのご提言を活かして開放型病院としてより良い医療を目指したいと存じます。またフロアから熊本市歯科医師会会長の古賀明先生よりコメントを頂きました。

総会終了後、会場を鶴屋ホールに移し懇親会を開催しました。熊本市医師会長の福田稗先生にご挨拶と乾杯の音頭を取って頂き開宴しました。昨年の懇親会で、登録医の先生より名札をみても医師の診療科が分からない、また医師と一目で分かるようにしてほしいとのご指摘がありました。そこで当院医師には診療科名の入った青いストライプ式名札を用意しました。この名札により医師かどうかがすぐ分かり、また診療科も分かって良かったと好評を頂きました。約1時間穏やかな雰囲気の中、多くの先生方のお話を直に聞くことが出来ました。最後に石原章先生に中締めのご挨拶を頂き懇親会を終了しました。

多数の先生方にご出席頂き心より感謝しています。これからも病診・病々連携がさらに充実するように努力致します。（副院長 池井 聡）

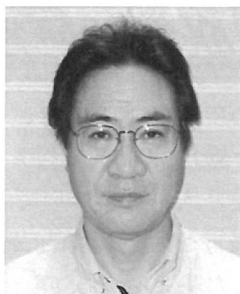


パネルディスカッションの風景



「楽しいお話しが聞けますよ！」

(医法) 佐藤会  
佐藤胃腸科肛門科  
外科医院  
院長 佐藤 文生



登録医にはなっておりますが、年にほんの数人の患者様の紹介で、登録医の名を穢しております。これではいけないと、地域医療研修センターで開催されています勉強会には、顔を出しております。そういう訳で、玉名の地から、国立病院機構熊本医療センターの勉強会について書かせて頂きます。

ところで、何でもまた玉名からとお思いの諸兄が多いと思われませんが、ほんの40~50分で地域医療研修センターに着きます。くまもと中央C.C. (県メディ

カル・ゴルフ会のホーム・コース) までの時間とほぼ同じです。ともに、わくわくと高揚した気持ちで向かう40~50分です。

地域医療研修センターでは、玉名の開業医の杏尾修一先生、栗崎寛治先生、安成英文先生、浦田章子先生をよく見かけます。

勉強会は、毎日の診療で忙しい国立病院機構熊本医療センターのスタッフが講師となられ、又、他所のトップクラスの先生方が、力を振り絞って御教授されます。プリミティブなところから、高いレベルの更にアップ・デートな日々の臨床に直結したお話しを詳しく聞けます。私は、特に他科のお話しを楽しくお聞きしています。“へー？ そうなんだー！”と。

初期治療講座、総合症例検討会 (CPC)、熊本がんフォーラムが私の定番です。臨床検査部に病理専門医の村山寿彦先生がおられ、“何だい、こんなのが分からなかったのかい”と、それは明確な見事な解説で謎解きをされるCPCは必見ものです。

その他、三木会、月曜会、救急症例検討会等催されていますが、まだ出席したことはありません。そろそろ覗いてみようかなと食指を動かしているところです。その節は宜しくお願いします。

皆様、地域医療研修センターでは、役に立つ楽しいお話しが聞けますよ！

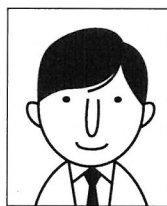
## 国立病院機構熊本医療センター開放型病院登録医証の発行について

登録医証は、共同指導の際に名札としてご利用頂けます。発行をご希望の先生は、管理課庶務係 (TEL 096-353-6501 内線390) までお申し込み下さいますようお願い致します。

写真は時間内であれば当院内で撮影できますし、縦4cm×横3cmで顔全体が写っているものをお持ち頂いても結構です。

また、駐車場については、玄関前駐車場ゲートにて駐車券をお取り頂き、0番窓口 (時間内) 又は、時間外受付 (時間外) にお申し出頂ければ、無料の手続きを致します。

### 開放型病院登録医証



〇〇〇 医師会  
熊本 太郎

平成18年1月1日交付  
国立病院機構熊本医療センター

1. 国立病院機構熊本医療センターで診療を行う場合は、この証を持参し名札として着用下さい。
2. 駐車場を利用される場合は、この証を駐車場入口で提示して下さい。
3. この証の記載事項に変更があったときは速やかに届け出て下さい。
4. この証の有効期限は3年間と致します。

## 特色

高齢化社会を反映して嚥下性肺炎症例が多く、同時に合併症を有していることから、全身管理の必要な症例も少なくありません。肺癌も増加傾向にあり、積極的な検査を行い、当院胸部外科と協調しながら根治を目指しています。また、びまん性肺疾患に代表される貴重な症例の研究も行っています。

# 2006

## 診療科紹介(4)

### 総合医療センター(4)

### 呼吸器内科(呼吸器センター)



森松 嘉孝

呼吸器一般、内科  
救急医療  
日本呼吸器学会認定専門医  
日本内科学会認定内科医  
日本呼吸器内視鏡学会専門医  
日本救急医学会専門医



田尻 守拡

呼吸器一般、内科  
救急医療  
日本内科学会認定内科医

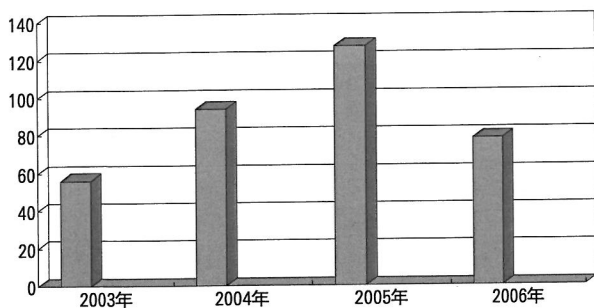
## 平成17年度の実績

外来：年間総患者数は4,251名、うち新患は903名(75.2名/月)でした。

入院：新入院患者数(のべ)は587名、月平均53名。平均在院患者数は一日19.9名、平均在院日数は12.3日と前年より3.5日短くなっています。原因疾患は、肺炎・気管支炎・胸膜炎233例、肺癌120例、気管支喘息56例、COPD51例、間質性肺炎34例、咯血・血痰23例、気胸18例、急性呼吸不全11例、器質性肺炎10例、結核・非定型抗酸菌症10例、肺化膿症8例、心不全7例、サルコイドーシス5例、肺アスペルギルス症2例、気管支異物2例でした。

気管支鏡検査は年間129例と前年より35例増加しました。

### 当科における気管支鏡検査数の推移



→2006年度は160件に達する勢いです

## 研究課題

久留米大学医学部内科学部門呼吸器分野と共同で「COPD患者におけるツロブテロール貼付薬のチオトロピウム吸入薬への追加効果」、「COPD患者を対象としたチオトロピウムとテオフィリン徐放製剤の併用効果及び安全性に関する臨床比較研究」、熊本大学大学院医学薬学研究部呼吸器病態学と共同で「フルタイドデイスカス、キュバル、またはパルミコートタービュヘイラーが投与されている気管支喘息患者を対象として使用薬剤を変更した際の使用感、喘息症状のコントロール状況および副作用に関する比較検討」を行っています。また、自主研究としては①嚥下性肺炎症例に対するシロスタゾール投与後の血中サブスタンスPおよび脳血流シンチグラムの変化②癌化学療法におけるラモセトロンとグラニセトロンの制吐効果の比較③間質性肺炎患者における慢性咳嗽に対するプラナルカストの効果を行っています。

外来診察医は(月)(火)(木)森松、(水)(金)田尻で、気管支鏡検査日は1泊入院にて行っており、毎日可能です。2006年2月より睡眠時無呼吸症候群1泊検査入院システム(PSG)を開始しました。また、呼吸器内科医療事務助手として2006年7月より鬼塚和子さんが加わり、診療体制の充実をはかっています。

## ■原稿を募集致します■

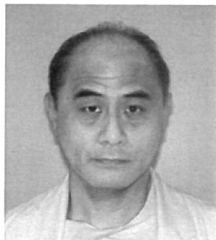
登録医の先生の投稿を歓迎致します。400～800字程度を基準にお願い致します。

送付先 〒860-0008 熊本市二の丸1-5

国立病院機構熊本医療センター 『くまびょうNEWS』編集室まで

## 最近のトピックス

### 脊椎内視鏡下手術が始まっています!! —脊椎内視鏡下手術の現況と展望 (第2報)—



整形外科医長

橋本 伸朗

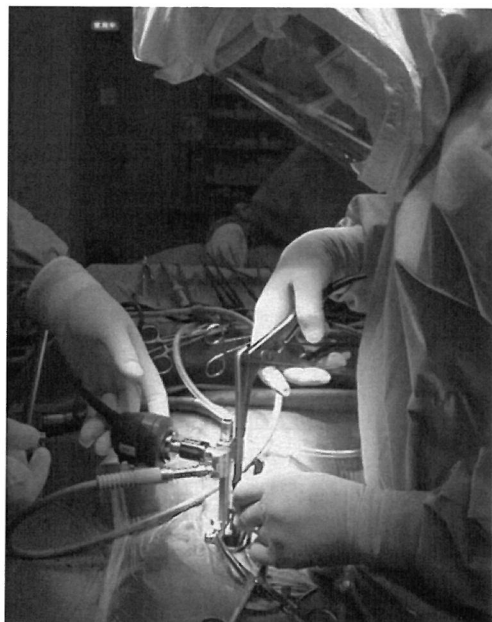
前回 (くまびょうNEWS 第109号、7月号)、御紹介しました脊椎内視鏡下手術の続報です。2006年6月をもって手術に必要な機器の整備が完了し、7月から、いよいよ当院でも脊椎内視鏡下手術が可能となりました。導入のための準備期間を入れると文字通り足掛け3年余りを費やしての待ちに待った導入です。

今回導入された機器は、メドトロニック・ソファモアダネック社製の脊椎内視鏡 (硬性) で、内視鏡の直径はわずか3mm、これに最新の3CCDカメラ (第3世代) を装着します。この内視鏡を直径22mmのチューブレトラクターに固定し、レトラクターで確保された22mmのスペース内で手術操作を行います。脊椎内視鏡下手術とその他の内視鏡手術との決定的な違いは、ここにあります。外科の胸腔鏡や腹腔鏡手術、あるいは整形外科の膝や肩の関節鏡手術のように、もともと腔

のあるところに内視鏡を挿入して見るものと違い、脊椎内視鏡は、チューブレトラクターを脊椎に向けて挿入し、そのレトラクター内を腔として操作するというものなのです。スペースが限られていますので、安全で確実な手術操作のためには、鮮明な画像が必要不可欠です。以前、第1世代カメラを使用による実際の画像を視ながら手術をしたことがありますが、まるで曇りガラスを通して術野を視ているようで、当時の膝や肩の関節鏡に比べて、あまりの画質の悪さに驚き、失望したものでした。その点、第3世代の3CCDカメラ画像は非常に鮮明で、関節鏡の画像と比べても遜色ありません。実はこの第3世代の3CCDカメラは全国に先駆けての導入となりました。

現在、適応を選んで手術を開始しています。手術適応症例は、基本的に腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症、単椎間に限局した脊髄腫瘍などです。7、8月の2ヶ月間で腰椎椎間板ヘルニア：2例、腰部脊柱管狭窄症：4例、脊髄腫瘍：1例に使用しました。

実際に手術を行って感じるのは、患者様へのメリットとして、手術創が小さい (皮切22mm) ため、健常な組織へのダメージが最小であること。出血量が通常手術に比べて少ない (ほとんど計測できないくらいの量) こと。したがって、早期離床・早期退院が可能となります。術後5日目に退院された患者様が2名おられます。一方、患者様へのデメリットとしては、通常手術に比べて手術時間が長くなることです。これは手術操作に慣れることで次第に短縮され、通常手術と同等になると予想しています。脊椎内視鏡下手術の今後に御期待下さい。



手術風景：右端のモニターを見ながら手術操作を行います。

## 最近のトピックス

## テレビ取材 ー巨大色素母斑の治療ー



形成外科医長

大島 秀男

形成外科では、先天異常や母斑症など体表の形態異常、熱傷・外傷全般の診療を幅広く行っています。この度、巨大色素性母斑という先天性の大きな「あざ」の患者様に対する治療法の取材が熊本放送（RKK）よりあり、9月5日「夕方いちばんニュース」の熊本の医療事情のコーナーで放映されました。

巨大色素性母斑は茶色から黒色の軽度隆起した皮膚病変であり、しばしば毛が生えていることから、以前は獣皮様母斑と呼ばれておりました。小さな母斑や黒子は悪性化することは極めて稀ですが、巨大色素性母斑は悪性黒色種を発生しやすいことが報告されております。悪性黒色種は最も予後の悪い皮膚癌であり、手術による母斑の切除は悪性黒色種の発生の予防につながります。また母斑は目に見える病変であり、患児やその家族が気にしたり、周囲からのいじめなども危惧されるため、通常就学前に手術を行っております。

今回取材された患者様は、左臀部から大腿にかけて母斑が存在し、一度で切除すると植皮が必要になるため、分割切除というくり返し切除・縫縮する手術法を選択しました。部位にもよりますが、乳幼児は皮膚の伸展性がよいため、半肢ぐらいまでの大きさの母斑は分割切除が可能です。

この方法では手術が2回以上となり、手術の間隔を半年以上あけるため完治まで長い期間がかかりますが、体の他の部位を傷つけることなく切除することが可能になります。この患者様に今年行った3回目の手術で

は残存している母斑のほとんど全部を切除しました。現在は術後の経過観察、傷跡をできるだけきれいにするための後療法を行っております。

番組の中で患児のお母様が、「友達が全然できないのではと悩んでいて、一時は心療内科に通うほど精神的に追いつめられていました。」と言われていたように、先天異常、母斑症などの患者様やその家族の精神的な苦痛には多大なものがあります。そういう患者様たちのために、より良い医療が提供できますよう一層努力してまいりたいと存じます。



図 上段：初診時 下段：術後

ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

国立病院機構熊本医療センター ホームページアドレス <http://www.hosp.go.jp/~knh/>



## 総合医療センター

### 内科

かど わき よし のり  
門 脇 嘉 宣



平成18年3月に熊本大学を卒業致しまして、同4月より国立病院機構熊本医療センターにて研修をさせて頂いております門脇嘉宣と申します。当院の研修医として2年間お世話になります。

これまで循環器科と神経内科にて2ヶ月ずつを過ご

させて頂きましたが、各科の様々な症例・業務・手技の他に、幸運にも循環器科では血管新生療法を、神経内科では血栓溶解療法を複数例経験する機会に恵まれました。どれも驚くような効果を目の当たりにすることができ、貴重な経験をさせて頂いたことに感謝しております。現在は血液内科にてお世話になっておりますが、この科にて経験できる骨髄移植も、同様の良い結果が見られることを願って止みません。

2ヶ月間という短い期間のローテーションでは、その科に慣れた頃に次の科への異動となり、環境の変化に戸惑いを感じることもあります。これもローテーションによって得られる経験の一つとして捉え、新しい環境に早く慣れようと努めております。失敗と反省を繰り返す日々にて、スタッフの皆様にご迷惑を掛けることがあると思いますが、ご指導のほどよろしくお願い致します。

## 心臓血管センター

### 循環器科

さ さ き あき こ  
佐々木 彰子



平成18年4月から国立病院機構熊本医療センターで研修させて頂いています佐々木彰子です。医師になって5か月、新社会人になって5か月、熊本に来て5か月と初めての事づくしでまだまだ慣れないことが多く、毎日が飛ぶように過ぎて行き、あっという間に今日を迎えています。

最初の半年は、血液内科、消化器科、循環器科を2か月ずつ研修させて頂きました。

採血に始まり、ルート確保、骨髄穿刺、IVH挿入、内視鏡検査、超音波検査、心臓カテーテル検査などいろんな手技を丁寧にご指導頂きながら実際にさせて頂いています。新臨床研修制度が始まって私たちが3年目となります。少し慣れてきた頃に次の科へ変わり、また0からスタートするため少し負担に感じることはありますが、将来進む科がはっきりとは決まっていない私にとって絶好の機会であり、毎日張り切って研修しています。

まだまだ一つ一つのことに一喜一憂してしまう毎日ですが、同期の皆と励ましあいながら頑張っていこうと思っております。また諸先生方から手技はもちろん、診察の仕方、考え方、患者様やご家族への接し方、説明の仕方等たくさんのものを吸収して自分の目指す医師像を少しずつ確立して行きたいと思っております。

これからもどうぞよろしくお願い致します。

## 国立病院機構熊本医療センター

# クリティカルパス研究会開催のご案内

- 日時 第44回研究会 平成18年10月18日(水) 18:00~19:30  
 第45回研究会 平成18年12月13日(水) 18:00~19:30(予定)  
 第46回研究会 平成19年2月21日(水) 18:00~19:30(予定)

上記研究会へ参加を希望される方は往復葉書に参加したい研究会の期日と連絡先(勤務先、所属、住所、氏名、TEL、FAX、E-mail)を書いて下記までお申し込み下さい。各回先着30名とさせていただきます。参加費は無料です。

国立病院機構熊本医療センターにおけるクリティカルパスの発表会があります。現在電子カルテに向けて新しいクリティカルパスを開発中です。是非ご参加下さい。

### お問合せおよびお申し込み先

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

〒860-0008 熊本市二の丸1-5

TEL 096-353-6501(代表) 内線263 096-353-3515(直通) FAX 096-352-5025

E-mail mng.kumamoto@deluxe.ocn.ne.jp

# ■ 研修のご案内 ■

## 第58回 特別講演 (無料)

[日本医師会生涯教育講座 5 単位認定]

日時▶平成 18年10月 4日(水) 19:00~21:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

座長 国立病院機構熊本医療センター副院長 池井 聰

「癌診療・治療における外科医の役割」

国立がんセンター東病院名誉院長

がん相談蕩蕩院長

海老原 敏

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 副院長 池井 聰 TEL 096-353-6501 (代表) FAX: 096-325-2519

## 第206回 初期治療講座 (会員制)

[日本医師会生涯教育講座 5 単位認定]

日時▶平成18年10月 7日(土) 15:00~18:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

「精神科救急医療」

座長 熊本市医師会 宮川 洗平

1. 総合病院における精神科救急

国立病院機構熊本医療センター精神科医長 渡邊健次郎

2. 単科精神病院における精神科救急

熊本県立こころの医療センター医長 大塚 直尚

3. 精神科救急の現状と問題点

医療法人北斗会さわ病院院長 澤 温

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ(年会費20,000円)として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は会費5,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線263 096-353-3515 (直通)

## 第93回 月曜会 (無料)

(内科症例検討会)

[日本医師会生涯教育講座 3 単位認定]

日時▶平成18年10月16日(月) 19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 呼吸器内科による胸部X線写真供覧

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター呼吸器内科医長 森松 嘉孝

2. 持ち込み症例の検討

3. 症例提示「腎機能悪化に伴ったジキタリス中毒の症例」

国立病院機構熊本医療センター腎センター 宮中 敬

特別講演「関節リウマチの治療戦略～臨床の現場ではこう戦っている」

講師 久留米大学医学部内科学講座呼吸器・神経部門膠原病班 本多 嘉孝

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線写真、心電図等がございましたら、ご持参下さいませようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター副院長 河野 文夫 TEL: 096-353-6501 (代表) FAX: 096-325-2519

## 第62回 三木会 (無料)

(糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会)

[日本医師会生涯教育講座 3 単位認定]

[糖尿病療養指導士認定更新0.5単位認定]

日時▶平成18年10月19日(木) 19:00~21:00

場所▶熊本ホテルキャッスル 地下1階 「さざんか」

熊本市城東町4-2 TEL096-326-3311

情報提供『テルミサルタンの最新情報について』

特別講演

座長 国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一朗

『糖尿病治療の新しい治療戦略とその方法』

熊本県立大学環境共生学部 食・健康環境学専攻教授 榊田 典治

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、ご持参いただけますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内分泌・代謝内科 小堀 祥三・東 輝一朗 TEL 096-353-6501 (代表) 内線796

## 第84回 総合症例検討会 (CPC)

[日本医師会生涯教育講座 5 単位認定]

日時▶平成18年10月25日(水) 19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

テーマ: 石綿暴露歴不明の胸膜中皮腫の疑い

(症例 40歳代、男性/主訴 不明熱)

臨床担当) 国立病院機構熊本医療センター呼吸器センター呼吸器内科医長 森松 嘉孝

病理担当) 国立病院機構熊本医療センター臨床研究部臨床病理室長 村山 寿彦

「40歳代の男性が、不明熱と胸痛の精査のために当院へ紹介入院となった。」

\*担当研修医がこの症例の臨床経過を詳細に検討し、鑑別診断を行います。臨床経過の問題点を明らかにした後で、病理より、マクロ、ミクロの所見と病理診断の解説を行います。興味深い臨床経過を取りました症例のCPCに参加して頂き、活発なディスカッションをお願い致します。どなたもお気軽に御参加下さい。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線263 096-353-3515 (直通)

# 平成18年 研修日程表 10月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

10月	研修ホール	会議室	その他
2日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
3日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
4日(水)	19:00~21:00 第58回 特別講演 座長 「癌診療・治療における外科医の役割」	[日本医師会生涯教育講座5単位認定] 国立病院機構熊本医療センター副院長 池井 聡 国立がんセンター東病院名誉院長 がん相談湯瀧院長 海老原 敏 16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
5日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M
6日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
7日(土)	15:00~18:00 第206回 初期治療講座《会員制》 座長 「精神科救急医療」 1. 総合病院における精神科救急 2. 単科精神病院における精神科救急 3. 精神科救急の現状と問題点	[日本医師会生涯教育講座5単位認定] 熊本市医師会 宮川 洗平 国立病院機構熊本医療センター精神科医長 渡邊健次郎 熊本県立こころの医療センター医長 大塚 直尚 医療法人北斗会さわ病院院長 澤 温	
10日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C 19~21 泌・放射線科合同ウログラム C
11日(水)		16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
12日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M
13日(金)		18:00~21:00 熊本地区核医学技術懇話会	8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
14日(土)	14:00~16:00 第193回 滅菌消毒法講座《会員制》 「滅菌保証のガイドライン」	K K三浦プロテックメディカル技術部専任部長 中井 哲志	
16日(月)	19:00~20:30 第93回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]		8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
17日(火)	18:00~19:00 第32回 くすりの勉強会(公開) 19:00~20:30 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
18日(水)	13:00~17:00 第22回 日本医療マネジメント学会主催クリティカルパス実践セミナー in熊本(1日目) 18:00~19:30 第44回 国立病院機構熊本医療センタークリティカルパス研究会(公開)		12~13 糖尿病教室 研食 13~17 糖尿病教室(講義) 研4 F 17:00 消化器疾患カンファレンス C
19日(木)	9:00~15:00 第22回 日本医療マネジメント学会主催クリティカルパス実践セミナー in熊本(2日目) 19:30~21:30 第44回 有病者歯科医療講演会 座長 前熊本市歯科医師会会長 関 剛一 「味覚障害について」 熊本機能病院顧問 小川 尚		7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18:00~18:30 代謝内科カンファレンス M
20日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
23日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
24日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図) 19:00~21:00 小児科火曜会	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C 18:30~20:30 血液研究班月例会 研4 F
25日(水)	19:00~20:30 第84回 総合症例検討会(CPC) [日本医師会生涯教育講座5単位認定] 「石棉暴露歴不明の胸膜中皮腫の疑い」	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
26日(木)	18:30~21:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M
27日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
30日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
31日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C

(図) 図書室 C 病院本館2階カンファレンス 手 手術室控室 別6 別6病棟 外来 小児科外来 M ミーティングルーム 研4F 教育研修棟4階 研食 教育研修棟食堂  
問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター  
TEL 096-353-6501(代)内線263 096-353-3515(直通)